活動レポート　技術交流研究会

文責：技術交流研究会幹事長　**吉野大仁**

第 122 回　研究会報告

第 122 回技術交流研究会は、平成 22 年 12 月 2 日(木)に Docon 新札幌ビル 3 F 会議室で開催しました。

講演会に先立ち、斉藤支部長より本部の動きとして関東甲信越地域における県単位の地域組織設置の状況をお話しいただき、講演会入りました。その内容について以下に紹介します。

■第 122 回　講演会概要

テーマ：「2011年キリンビール事業方針～誰よりもお客様の近くに。そして、もっと豊かなひとときを。～」
講演者：キリンビール株式会社千歳工場
総務担当　高野　睦史　氏
要　旨：

事業方針

2010－2012年グループ中期経営計画の初年度として定番ブランドの強化と新しい価値提案によるカテゴリー創造を通じてキリンブランドの価値を高め、将来にわたって継続的に最も支持される企業を目指します。

また、お客様価値を効率的・効果的に創造するリーン経営の実現を目指し、質的成長に向けた企業構造改革を推進していきます。さらに、「省資源」と「健康・アルコール関連問題」をテーマに、事業を通じたCSRの取り組みを強化します。

今回ご講演をしていただいた高野氏は、入社 4 年目の 26 歳でした。おそらく 122 回の研究会のなかで最も若かったのではないでしょうか。

ご講演は、以下のような内容でした。幹事の感想も含めてご紹介します。

①　キリンの各種ビールの製造方法

とくに一番搾りの製造過程を聞く中では、一番搾り麦汁とはなにかという所から始まり、完成までのプロセスを詳しく聞きました。

②　CM のお話、ラベルの変遷、環境への取り組みなど

最近の缶ビールの形が昔と若干変わっているのは皆さんお気づきだったでしょうか。缶の両端が少し絞ってあるあの形状です。缶の形を変えるだけで環境配慮になるとは驚きです。理論的には表面積を最小にするには球形ですから、球に近づければ缶の材料も少なくて済むという理屈は当たり前と言えば当たり前ですが、逆に使い勝手が悪くなり、梱包や輸送の問題も出てくるのでしょうから、両立できる形状を考案することが大切なのでしょうね。

写真－1　会場の様子

③　新製品

発泡酒や第三のビール、糖分カットにカロリーオ

フ、ノンアルコール、最近流行のウイスキーハイボールなど、この業界では、めまぐるしい新製品の開発競争が繰り広げられています。いわゆる新製品を開発・販売してからライバル他社がキャッチアップしてくるまでは、3ヶ月ぐらいしか期間がないそうです。凄まじいですね。製品開発に用いられるユーザーアンケートも、最近はインターネットを利用しているものが増えているようです。

④　ノンアルコールビールができるまでのプロセス

キリンのノンアルコールビールは「キリンフリー」ですが、そもそもこれを「ビール」と呼んでいいのかという疑問もあります。しかし、製造過程は発酵させる直前まで、ビールそのもの。一番搾りと全く変わらないのだそうです。ノンアルコール商品のそもそもの開発コンセプトは、アルコールを飲んではいけない、飲めないシチュエーションでの代替飲料。しかし、発売後は妊娠中の女性や休肝日の方にも受け、さらに驚いたことには、普通に晩酌や風呂上がりに飲む方が多く、当初予想よりも売り上げが大きく伸びているそうです。

アンケート結果などを交え、短時間にいろいろなことを説明して頂きましたが、身近な話題なだけに非常に興味深く拝聴しました。

写真－2　質問に答える高野氏

さらに、耳寄りなお話を2つ。

「キリン一番搾り」と「エビスビール」はどちらもコーンスターチなどの副材料を使用せず大麦だけから作られるビールです。「エビスビール」は「サッポロ黒生」より少し値段が高いですが、「一番搾り」は同じなので「一番搾り」がおいしくてお得とのことでした。

もうひとつは、皆さんもよくご存じのキリンのマークですが、このキリンの絵のなかに「キ」、「リ」、「ン」の3文字が隠れています。下の写真を参考に探してみましょう。

写真－3　「キ・リ・ン」の文字は？

この後、高野さんを囲んでちょっと早い忘年会をキリンビールを飲みながら開催しました。

忘年会会場はいつもはサッポロビールなのですが、事前にお願いしてキリンビールを用意してもらい、座学と実践が一度に経験できた有意義な研究会となりました。講演中も質問の雨あられでしたが、忘年会に入っても次々と質問があびせられ、食事もままならない中でもにこやかに全ての質問に答えて頂いた高野さんに、誌面をお借りしまして改めて感謝の意を表します。

【幹事より】

技術交流研究会は、6月、9月、12月の第一木曜日の午後3時からDocon新札幌ビルで開催しています。

また、会員も随時募集しております。(社)日本技術士会の会員であれば、どなたでも入会できます。入会を希望される方、研究会に出席を希望される方は、(社)日本技術士会北海道支部事務局(出村)までご連絡ください。